

探究通信

2021 (第1号)
富山県立高岡高等学校

2021年4月発行
編集 企画研究部

1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。探究科学科へようこそ！
令和3年度が始まりました。今年度第1号は、令和2年度3学期に行われた探究活動を紹介し、
コロナ禍においても、「探究する心」を忘れず、確実に磨いていきましょう！

1年探究科学科 科学探訪 in 富山 - 3月15・16日 -

令和3年3月15日(月)・16日(火)の両日、探究科学科1年生が科学探訪に行ってきました。例年、東京方面での宿泊研修を行っていましたが、今年度は、県内外の博物館・資料館や民間企業等を訪問しました。下記の4分野に分かれ専門的なことを学ぶとともに、ふるさと富山の新たな一面に触れたり、社会課題を発見したりする機会となりました。

各班のおもな訪問先(研修先)は以下の通りです。

【A班；自然地形分野】<①…3/15(月)、②…3/16(火)>

- ① 糸魚川フォッサマグナミュージアム、須沢海岸
- ② 立山黒部ジオパークめぐり(宇奈月地区)、魚津埋没林博物館

【B班；海洋資源分野】

- ① 富山県水産研究所、ほたるいかミュージアム
- ② 近畿大学水産研究所富山実験工場、新湊クルーズ、氷見市漁業文化交流センター

【C班；産業環境分野】

- ① 日本高周波鋼業(株)富山製造所、(株)富山環境整備
- ② 富山市エコタウン交流推進センター、日本総合リサイクル(株)

【D班；歴史文化分野】

- ① 伏木北前船資料館、北前船廻船問屋森家・馬場家、富山市民俗民芸村売薬資料館、薬種商の館金岡邸
- ② 五箇山合掌造り集落(菅沼、相倉、流刑小屋)、城端曳山会館、城端別院善徳寺

[生徒の感想]

【A班】日本の地形についての知識を得たことで、文化などが違う理由を知ることができた。単なる知識ではなく、実際に目で見て体で体感することでより深い感動や造詣を得ることができた。

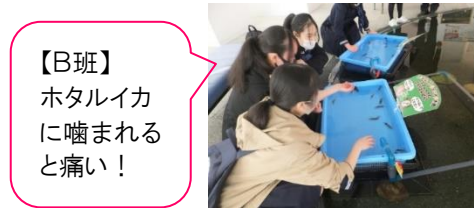
【B班】自分がいかに地元「富山」について知らないかということに気がついた。ホタルイカの発光器官や定置網の歴史的背景など、一步踏み込んだ情報をたくさん得ることができた。他県の人に自信をもって富山の魅力を紹介できるようになりたいと思った。

【C班】車両の解体現場は、想像以上に迫力があつた。産業というのは、作るばかりに目が行きがちだが、それらの再利用まで考え、次の世代につなげていくことが大事なのだと改めて気づかされた。

【D班】富山の歴史を知ることができ、昔ながらの発想や工夫、文化などに感銘を受けるとともに、先人の知恵をこれからの生活に生かしていきたいと思った。



【A班】
石探し、
開始！
(須沢海岸)



【B班】
ホタルイカ
に噛まれる
と痛い！



【C班】
廃熱を利用
してトマト
栽培!?

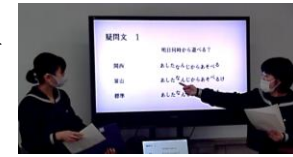


【D班】
江戸時代、
五箇山は加
賀藩の流刑
地だった！

1年探究科学科 TKR I β (3学期)の活動

2学期のTKR I αで探究活動の基礎を学び、3学期のTKR I βでは、各自の興味関心にあわせて6つの教科班に分かれ、ミニ課題研究を行ったり、実験の基礎を学んだりして、2年次の課題研究に向けての準備を進めました。

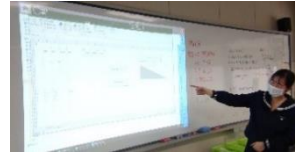
*「TKR」は「Taka-Ko-Research」の略。



国語；富山弁は…



地歴；富山県の誕生は？



数学；これは…



理科；実験&レポート



英語；Toyama is …



家庭科；意外と難しい…

京都大学ポスターセッション2020にオンデマンド参加

高校生が日頃の課題探究活動の成果を府県や学校の枠を超えて披露し、探究心や知的創造力のさらなる向上を目指して開催されている、上記研究発表会が、今年度は、3月20日・21日の両日、オンデマンドで開催されました。本校からは、2年理数科学科の「課題研究」物理2班の生徒が、「百発百立!? ペットボトルフリップ!」のテーマで発表しました。以下は参加した生徒の感想。

- 「課題研究」は、まずテーマ決めから始まり、何に注目してどのように実験し、結果から何がわかるかなど、すべて自分たちで考えなければならず、「課題を発見する力」や「考える力」がついたと思う。
- 仲間とともに協力し一つの課題を完遂させることの大切さを学んだ。
- 自分たちは、ポスターや要旨の内容のわかりやすさを追究していたが、他校の発表を見て、話し方など伝えることの大切さに気づいた。今後の参考にしたいと思った。
- 他校の発表やポスターには、着眼点が独創的で面白いものが多かった。様々な現象や文化に興味や疑問を持つことは、とても大切だと思った。



参加した物理2班のメンバー

WWL 高校生国際会議(金大附高主催)に参加 -3月20日-

*「WWL」とは「ワールド・ワイド・ラーニング」の略。スーパーグローバル(SGH)事業で実施してきた課題探究型の活動をベースに、金沢大学附属高等学校が中心となり、北陸圏域の高等学校や海外の高等学校、関連する機関がネットワークを形成し、「持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダー」を育成する事業で、令和元年度から開始。富山県内では本校が唯一連携校として参加。「高校生国際会議」は今回初めて実施され、令和3年度は8月開催。

「パンデミックの時代に私たちはどう生きるか」をテーマに、北信越10校の生徒やシンガポールの学生が4つの分科会に分かれて、環境問題やコロナ禍での学び、グローバルな社会課題などについて、認識を深め解決策を構想。最後には「高校生行動宣言」を採択しました。

以下は参加した生徒の感想。

- 離れた場所にいる仲間から、様々な視点から意見を聞くことができた。
- 実際に話をしてみると自分の考えや知識が不確かであることがわかった。
- 「当たり前」になっていることも、もう一度本質を問い直すことが大切。
- 話し合いを机上の空論にしないで、アクションに変えていきたい。



1年探究科学科の生徒4名が、オンラインでそれぞれの分科会に参加。